

科目名		架構実習Ⅰ				
担当教員		上田 正義		実務授業の有無	○	
対象学科		建築大工科	対象学年	1年	開講時期	後期
必修・選択		必修	単位数		時間数	96
授業概要、目的、授業の進め方		建築大工の技術者として基本となるな道具の知識・使用法、管理を学び、在来軸工法の基礎的な技術を実習を通して学ぶ 1. 説明→作業実習→添削と評価→修正を繰り返し行い基礎技術を身につける。 2. 加工、工法に応じた道具と、手順を理解し修練する。また習得レベル差ごとの指導も適宜行う。 3. 刃物など、注意が必要な道具を用いた授業のため、安全管理に留意する。				
学習目標 (到達目標)		建築工法が多様化している昨今、長い歴史と根強い人気を持つ在来軸組工法の基礎的な諸作業を行うことで、現在、建築大工として求められる心構えや知識、技能の基礎を身につけるとともに、社会に貢献できる職人として、また社会人としての人間力を備えた人材を育成することを目的とする。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料		①大工技術を学ぶⅠ				
NO.	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考		
1	基本的な仕口・火打ち梁の習得			方法：配布プリント等の教材と実習室の工具 材料を使って、実習課題の進めかたの説明 準備学習：配布プリント等で作業手順を予習		
2	隅木の習得 三級技能士を見越した課題を作成。ねじ組からの隅木の製作。本来の寄棟の作り方を習得。			方法：配布プリント等の教材と実習室の工具 材料を使って、実習課題の進めかたの説明 準備学習：配布プリント等で作業手順を予習		
3	三級技能士 課題の製作			方法：繰り返し繰り返し、課題を製作し、体に覚えさせる。 準備学習：配布プリント等で作業手順を予習		
4						
5						
6						
7						
8						
9						
10						
評価方法・成績評価基準				履修上の注意		
平常点	課題			実践的な作業として行うため、確実に習得できるよう毎日の目標を設定し授業に取り組ませる。 知識と同時に技術を伴う内容のため、機能や管理方法を十分理解したうえで、道具等の安全な取り扱いに留意し繰り返し、積極的に実習に取り組む技術の習得を目指す。		
%	%	%	%			
成績評価基準は						
A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
実務経験教員の経歴		建築大工として40年実務に携わる				